若風痾更發、神心違例歟、相送白米和布味噌等、可問訊之、送使還來言、平忍已以入滅、○下略

〔和泉式部續集上〕二月ばかり、みそを人がりやるとて、

花にあへばみそつゆばかりをしからぬあかで春にもかはりにしかば

〔徒然草下〕平宣時朝臣老の後むかしがたりに、最明寺入道○北條時頼あるよひの間に、よばるゝ事ありしに、やがてと申ながら、ひたゝれのなくてとかくせしほどに、又使來りて直垂などのさぶらはぬにや、夜なれば、ことやうなりとも、とくとありしかば、なへたる直垂うち〳〵のまゝにて、まかりたりしに、てうしにかはらけとりそへてもて出て、此酒をひとりたうべんがさう〳〵しければ申つる也、さかなこそなけれ、人は玄づまりぬらん、さりぬべき物やあると、いづくまでももとめ給へと有しかば、玄そくさして、くま〳〵もとめし程に、だい所の棚に、小土器にみその少つきたるを見出て、これぞ求えてさぶらふと申しかば、事たりなんとて、心よく數獻に及びて、興にいられ侍りき、其世にはかくこそ侍しかと申されき、

〔三省錄後編飲食二〕同君○酒井忠勝の時、鹽噌奉行何某、鹽噌を私用に取遣よし訴ありければ、忠勝君其者を召、御尋有ければ、味噌の上はなみ桶はだは風味あしきゆゑ、中間どもに給させ、中のよろしきところを、諸士等の料理に用ひ候、ケ樣の事を私曲と申にやと申上げれば、さも有べし、いよ〳〵念を入るべしと宣ひ、御吟味はなかりし、

〔太平記三十五〕南方蜂起事附畠山關東下向事

其比何ナル者ノ態ニヤ、五條ノ橋爪ニ高札ヲ立テ、二首ノ歌ヲ書付タリ、○一首略

何程ノ豆ヲ蒔テカ畠山日本國ヲバ味噌ニナスラン

〔燕石雜志四〕關東方言

昔よりいふ諺は、今に遺れるもおほかり、○中略ふるき諺の遺れるを二ツ三ツ左に記す、○中略狼狽